



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/21 (月)	▲ 400	+ 15,500	+ 15,100	国庫短期証券発行償還 (3M・1Y)	国債補完供給 + 8,500 社債等買入 ▲ 100 CP等買入 ▲ 200	国債買入 + 11,100	米: 景気先行指数 (9月)
10/22 (火)	トン	+ 3,000	+ 3,000				日: 基調的なインフレ率を捕捉するための指標
10/23 (水)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000			社債等買入 + 500	
10/24 (木)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000				米: 製造業・サービス業PMI (10月) 欧: 製造業・サービス業PMI (10月)
10/25 (金)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (20年)			

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、源泉税揚げや年金定時払いなどの要因により前営業日対比9兆4,800億円増加の54兆7兆6,100億円から始まった。その後、同残高は若干の増減を経て、18日は54兆7兆7,100億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.227%~0.400%のレンジ、1M~3M物0.285%~0.330%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、22日に基調的なインフレ率を捕捉するための指標の公表、海外では24日に米PMI (10月)、ユーロ圏PMI (10月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.220 ~ 0.228
1M	0.28 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.45
3M	0.30 ~ 0.45
6M	0.45 ~ 0.65

<レポ>

足許GC取引は週を通して+0.23%~+0.25%の出合いが中心となった。輪番オペがオファーされた週末も水準に変化は見られず、狭いレンジで取引が行われた。

SC取引は2年460~465回債、5年149~173回債、10年350~376回債、20年180~189回債、30年65~84回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,000億円で、週間償還額の8,300億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆7,576億円から、10月17日時点で24兆2,655億円に増加した。発行市場は、鉄鋼、輸送用機器、鋳業、建設業、卸売業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.30%前半までの出合いとなった。先週に引き続き、1M物の内、発行量の少ない銘柄については、政策金利の0.25%に限りなく近い値で推移している。

来週の償還額は、8,900億円となっている。発行市場は、月末週に向けて一定の調達ニーズがあり、相応の発行が見込まれる。発行レートは、1M物では0.25%近辺での出合い、3M超の案件については0.30%を超える水準での出合いが散見されるであろう。

<TDB>

17日の1Y (1263回債) の入札は、最高落札利回り0.2987% (前回債0.2762%)、平均落札利回り0.2886% (前回債0.2622%) となった。

18日の3M (1264回債) の入札は、最高落札利回り0.0074% (前回債0.0131%)、平均落札利回り0.0026% (前回債0.0067%) となった。

来週の入札は、25日に3Mが予定されている。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50